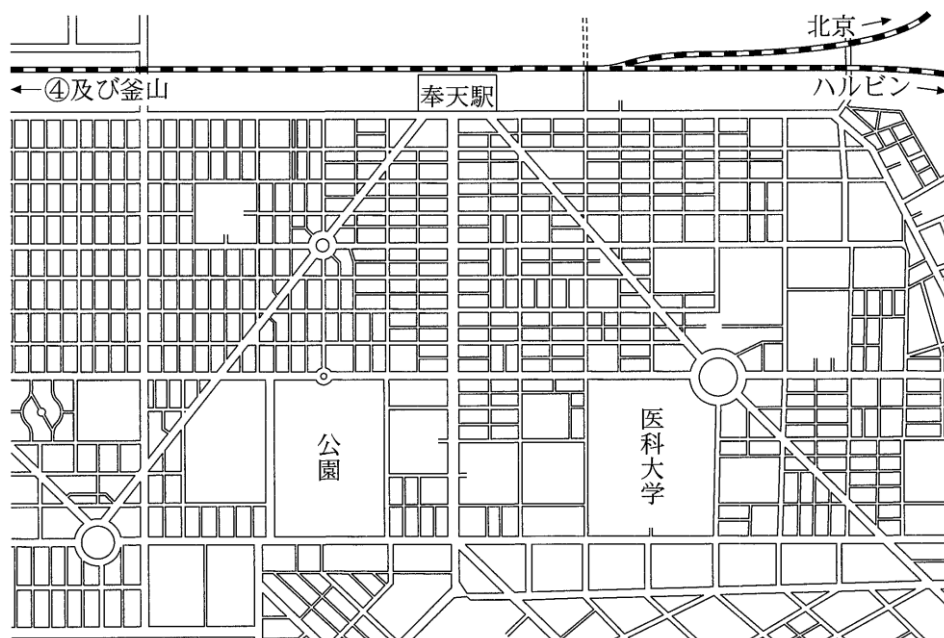


大連・旅順・瀋陽探訪 その1 (南賢司)

2013年8月の中ごろ、9月から使用する『論述地理マイスター』の改訂を進め、様々な大学の問題からどの問題が受験生には適切なのだろうかを選定に頭を悩ませていたとき、一橋大学の2013年度の大問3に目を惹かれました。それは瀋陽(奉天)の街路形態の問題でした。瀋陽はロシアの統治時代もあれば、日本の統治時代もあるややこしい背景を抱えています。その結果、ロシアが西ヨーロッパへの憧憬から環状路を設定し(パリの環状路は著名)、さらには日本が統治した時代に放射直交路型の街路形態を採用しました。ですから、瀋陽は東洋と西洋の融合のような街路形態なのです。下の図は一橋大学の出題の図です。こんなロマンティックな街に行かないわけにはいかない、そう強く思った私はすぐさま8月31日に旅立つことを決めました。思い立ったが吉日です♪

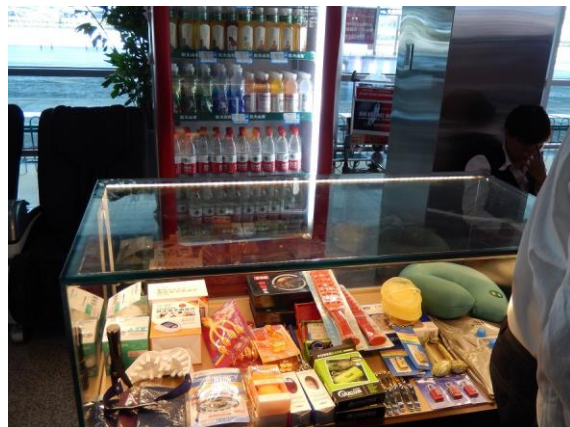
図Ⅲ—3



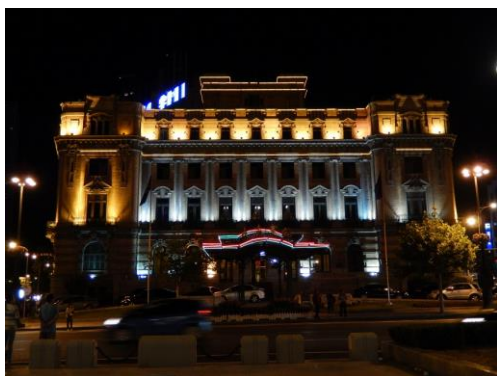
とりあえず旅行者の基本である『地球の歩き方—大連・瀋陽・ハルビン』を購入し、宿泊先の選定に入ります。『地球の歩き方』から察するに、この地方の楽しみは、旅順の203高地、大連の町並み、瀋陽の町並みの3つであることが分かりました。そして、ちょうど真ん中の都市が大連ですので、大連で宿泊し、1日目は大連、2日目は旅順、3日目は瀋陽として3泊4日で行こうと決めました。宿泊先は、やっぱり環状路のまん前のホテルに泊まりたいと考えて、大連賓館という旅館にメールで連絡します(大連の街中にも環状路はいくつかあります)。返事は見事OK! 幸先がいいですねー、ってな感じで宿も決まって、いざ出発です!

いやー久々の中国ですよー。大学時代、大学院時代はしょっちゅう中国を訪れていましたが、この研伸館という会社に入って以降は、アルバイトのH川くん(今はきっと社会人)と一緒に上海に1回行っただけで、10年ぐらい訪中していませんでした。自分の中国語はまだ通じるのだろうか、中国人の無愛想さにへこたれることなく旅行を遂行できるのだろうか、そんな一抹、二抹な不安を抱えつつ、大連周水子国際空港に到着です。個人旅行は頼りになるのが自分だけなので、空港を降りて客引きに遭うだけでもドキドキです。高い値段をふっかけてきそうないかがわしいタクシー運転手を無視し、正規の乗り場からタクシーに乗って、大連賓館へGO！

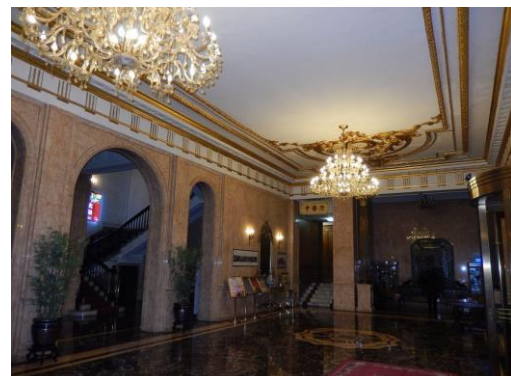
なぜか分かりませんが、昼間の外観をフォトに収めてなかったので夜の写真と内装をお見せいたしましょう。



空港で売っているもの



超豪華！



シャンデリアですよ！



意外に中は暗いというギャップ！



大連賓館の前の環状路と街並みです！

どうですか、この豪華な感じ。いくらか忘れましたけど高いお金をはたいただけのことはありますねー。一泊 100 円くらいの安宿に泊まる楽しさもありますけど、日本の文化遺産であるホテルに泊まるのもまた乙なもんです。きっと満州国があったときには日本の軍人や要人、憲兵などが泊まっていたことだろうと思われます。ただ、中が暗すぎてね。ほんまに名門のホテルの内部なのかとちょっと疑いましたよ。この薄暗さと不気味さが、後に心に重くのしかかってこようとは今は知る由もない南先生でした。

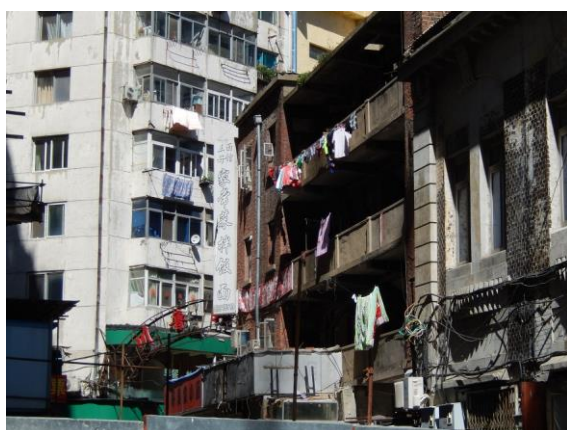
ひとしきりホテルを散策したあとは、2 日目や 3 日目の電車の切符を買いに駅の方へ向かうことにしました。ついでに駅前の旅行代理店で、旅順行のツアーにも申し込もうとも思っていました。街を歩き始めると、もうウキウキワクワクが止まりません。新しい街を歩くななんて素敵なことですよね。道中で撮った写真のいくつかをお見せします。



銀行の前の守り神的な存在。リボンいる??



大連の中心部にあるオブジェ



近代化した街の中にも低所得者住宅があります



一般的なストリート。服装は地味目かな

10 分くらい歩くともう大連駅にたどり着きました。早い！自分の選んだホテルの立地条件が最高であることに気づいてご満悦です。何か写真が多くなりますが、どんどん掲載していきます。だって、デジカメ新調したてだったのですよ。もう、デジカメの方が“撮らしてください！”って感じの顔してたんで、一杯シャッターを押してやりました(笑)。



大連駅



人がめちゃくちゃ多い！



駅前広場。リーガルハイ 2 のロケ地ではない



切符売場

そして大連駅に到着。でかいですねー。そして人も一杯。さらにフットサルコート。これは意外でした。中国でもフットサルが流行っていたとは！一瞬、「リーガルハイ 2」で、岡田将生と新垣結衣が話しているシーンで登場するコートかなと思いましたが、それはきっと違うのでしょう(笑)。このコートを横目に見ながら、付近のショッピングセンターの上の方にあると『地球の歩き方』に書いていた旅行代理店を目指します。翌日の旅順一日旅の手配をするためです。でも、書いてある場所に行っても店が営業している素振りがありません。本には年中無休とか書いてありながら、しっかり休暇をいただいているようなのです。やはりこれが“ザ・チャイナか〜”と落胆しながら、翌日の予定を変更し、先に瀋陽(かつての奉天)に向かうため、切符売り場を目指します。ここで読者の方に伝えておこうと思うのですが、中国の電車は日本でいうところの新幹線だと思っておいた方がいいです。阪急電車みたいな私鉄はほぼありません。付近の移動は大体バスが担っているのです。だから、瀋陽までの切符は窓口で買うことになります。ここが最難関なのです。写真をみてもらったら長蛇の列ができてることが分かりますよね。拙い中国語で窓口でのやり取りを失敗したら、駅員も私のことを放っておいて、すぐ後ろの人に切符を売ろうとします。なので、行先や時間の通達ミスをなくすためにメモに情報を書いて見せることにして

います。今回はこれでうまくいきました。中国で切符を買うことがどれだけ緊張することか、ぜひ現地に行って体験してもらいたいものです。

無事切符を買うことに成功したので、付近のマクドナルドでビックマックセットを食べてお腹を膨らませ(中華料理より脂っこくなくてお腹にやさしい☆)、日本統治下に建設された古き良き建物を見に行きました。大連には下の写真のような場所がいくつかあります。映画撮影のセットかと思うような街の中を歩き、戦前に生活したこともないのにタイムスリップしたような感覚を味わいました。大連駅のすぐ近くにあります。



戦前を感じさせるでしょ

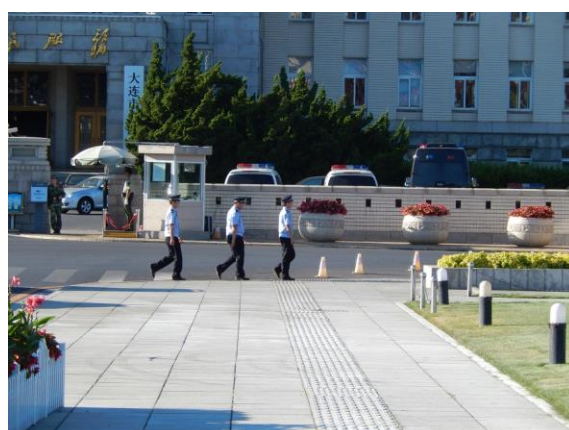


戦前と近未来の融合です

ここからは大連の街を歩き回り続けることにしました。旅行に行くと私はめっちゃ歩きます。色んなものが目に入ってきて刺激を受けることが多いからです。しんどいからと言って色んな公共交通機関に頼りすぎると、旅の楽しみの半分は失われると思っています。大連駅から1時間ぐらい歩いてたどり着いたのが人民広場です。婦人警官が馬に乗って見回っていると本には載っていましたが、そのシーンに出くわすことはできませんでした。



人民広場(遠くに大連観光タワー)



広場を見回る警察の人(何故か滑稽!)



道路の真ん中にある婦人警官



老人(結構お気に入りの写真です！)

写真で伝わるかどうかは分かりませんが、この人民広場は相当の広さがあります。行ったことはないけど東京ドーム4つ分ぐらいはあるでしょう(笑)。これぐらいの広場が警察に管理され、綺麗に芝生が整備され、家族連れで遊びに来ることができ、老人も追憶に浸ることができる…素晴らしい環境ですね。あとゲートボールさえできれば完璧。大連に住んでもいいかなーとも思いました。

お次は、遠くに見えていた大連観光タワーに照準を合わせ、再び1時間半ぐらいの徒歩を続けます。でも、タワーの方向に向かえども、なかなかその場所にたどり着けません。何人かの通行人に聞いたのですが、誰に聞いても言うことが違っているんです。もしかして、誰もたどり着いたことがないのか…この付近には何か触れてはいけないものがあるのか…勝手に“南の奇妙な冒険”が始まるんじゃないかとぞくぞくしていると、ロープウェーを発見。きっとあれで上るんだな、っと思うや否や前から日本語を話す3人に遭遇します。言っておきますが、大連に4日間いましたが、この3人以外の日本人に会うことはありませんでした。北京でも上海でも広州でも大量に見ることができた日本人が大連にはあまりいません。話を戻しまして、当然、「タワーにはどうやって行ったらいいですか？」と聞きます。旅行者の方だと思ったからです。すると、「乗り場はあっちの方にあります、一緒に行きますか？」という返事。渡りに船とばかりに喜んでついて行くと、その3人もせっかくだからタワーに行こうかということになりました。細かく3人の方にどういう人なのかを聞くと、“劇団ひとり”にそっくりな男性が2年前ぐらいに大連の企業に就職したばかりの人で、もう一人の男性が5年前ぐらいに大連の企業に就職した人で、この人の妻である中国人女性もいての3人でした。日曜日で休みだったことと、PM2.5 も何のそのというほどの快晴日和だったことで、“劇団ひとり”似の人が夫婦を呼び出して、労働公園を散策していたのだそうです。写真はどれも快晴さを物語っていますが、たまたま晴れていたみたいです。実は私は“快晴男”だったようです(笑)。ロープウェーで観光タワーの場所まで上り(お金が高いので中には入らず)、あとは付近の労働公園を散策しながら下りていきました。写真は労働公園内でのものです。



労働公園(働いてるのか遊んでるのか…)



ブライダル写真を屋外で撮るのが人気



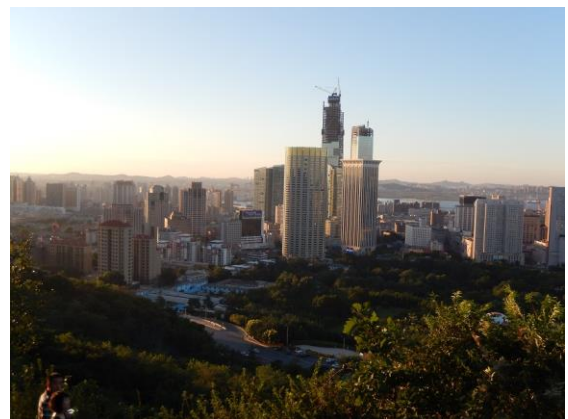
ロープウェーからの眺め(こわ〜い)



たまたま出会った夫妻



帰りは滑り台でどうぞって…怖すぎるやろ！



大連観光タワーの辺りから大連を一望



センスあふれる遊具 1



センスあふれる遊具 2

1時間ばかりほど一緒に公園内を4人で回りましたが、彼らはすぐにご飯を食べに行くみたいだったので、ここでお別れとなりました。一応、お勧めの食事処を聞くと、「大江戸」という和食の店を紹介してもらいました。この情報は良かったのですが、もう一つ教えられたことは、「大連賓館は昔の日本の軍隊の人が夜に出てくるらしいって噂がもっぱらですよ」ということでした。2個めの情報知らないよねー。心底言わないでおいて欲しかった。小心者の私は寝るとき心拍数が上がってきてどうしようかと思いましたよ(笑)。

帰り道も言わずもがな、歩きまくりで帰りました。夜なので夜市が見られるようになっていましたね。台湾でもどこでも、アジアの夜市は有名でしょう。そして大連賓館付近に存在していたおすすめ和食料理屋「大江戸」へ突入。大好きな大好きな重を頼みましたが、これが意味不明にごわごわした食感で肉厚&生臭い！大連は海際だから海の幸の料理はいけてるかなーって思っていたんですが、悪い意味で予想を裏切られました。半分ぐらい残して、「太陽系」っていうイカした名前のコンビニでパンを買ってお腹の足しにしました。こうして初日の旅は終了です。次回は、瀋陽編になります。こうご期待！



大連駅付近の夜市



何を売っているのでしょうか？



“太陽系” って名前のコンビニ



「大江戸」のうな重(正直まずい！)